

不妊治療中の患者に対する治療終結に関するアンケート調査

三慧会 IVF なんばクリニック ○杉本 朱実
浅井 麻利子
森本 義晴

I 緒言

不妊治療は、全ての方に挙児が得られるわけではなくご夫婦の子どもを断念し、夫婦ふたりだけの生活、養子縁組、精子や卵子の提供といったその他の選択をされる場合がある。本調査では、通院患者の治療終結に対する思いを調査した。

II 方法

2011年5月に当クリニック通院中の女性患者500名に自記式質問紙調査を実施した。調査は、個人が特定されない様倫理的配慮を行った。

III 結果

320名（回収率64%、320/500名）から回答が得られ、その内出産経験のない254名を対象に検証した。

- 1) 不妊治療の終結時期について：「妊娠するまで」が30歳未満49%、31～35歳35%、36～40歳28%、41～45歳20%、46歳以上11%であった。「自分自身が納得できるまで」が30歳未満9%、31～35歳25%、36～40歳23%、41～45歳19%、46歳以上56%であった。
- 2) 「その他の選択肢」について：「考えた事がある」166名（66%）、「考えた事がない」87名（34%）、無回答1名。「考えた事がある」の内容（複数回答あり）は、「夫婦ふたりだけの生活」142名、「養子縁組」43名、「卵子提供」19名であった。
- 3) 「その他の選択肢」を考えたきっかけについて（166名中、複数回答あり）：「治療がうまくいかず行き詰ったとき」122名、「不妊治療を開始しようとしたとき」66名、「ステップアップのとき」29名、「〇歳になったとき（自分自身が思う年齢）」27名、「治療を開始して〇年経ったとき」14名、「その他」31名であった。
- 4) 必要な情報について（166名中、複数回答あり）：「夫婦ふたりだけの生活」61名、「養子縁組」40名、「卵子提供」23名であった。知りたい内容は、「夫婦ふたりだけの生活」では、決断された理由やきっかけ、生きがいについてで、「養子縁組」では、基本的な条件や費用、具体的な手続き方法などが挙げられた。
- 5) 情報の入手方法について（166名中、複数回答あり）：「資料が自由に取れるようにして欲しい」88名、「希望した時に個別で話を聞きたい」58名、医療者が必要と思われたときに個別で説明して欲しい」36名、「不妊治療を始めるとき」16名、「集団説明会のような場で情報提供してほしい」15名、「一定の時期」4名であった。

IV 考察

治療中の患者は、年齢が若いほど妊娠するまで治療を続けたいという思いは強く、年齢が高くなるにつれ、自分自身が納得できるまで治療を続けたいという思いへと変化がみられた。「その他の選択肢」では、166名中142名（86%）が最終的には夫婦ふたりの生活を念頭においていることがわかった。また、必要としている情報内容から治療を終結するために、自分自身を納得させるだけの理由づけを模索している様にも思われた。

V 結論

年齢により治療の終結に関する思いに変化がみられ、それぞれの思いや価値観の違いから治療終結に対する思いも様々であった。本調査から患者が自由に知りたい時に知りたい情報を得ることができるよう資料を配置し、患者の意思を尊重し個別に対応することが重要と考えられた。